海と船と港

神戸港　画
17分会　姉川良男

神戸港の歴史は古く、約千五百年前、朝鮮や中国の大陸文化が日本へ紹介され始めた頃から大陸交易の門戸として開港。第一次大戦後から急速に発展し、名実ともにわが国第一の貿易港となり、世界三大美港といわれる。

海見

友

西ブロック　田島玲子

私には高校時代からの友が八人います。

それぞれ結婚した時期もあまり変わらず、子供も二、三人いて、やさしいダンナさまにも巡り合って、幸せな家庭を築いています。

子供たちに手がかからなくなった昨今、友の家を訪ねて朝から夕方までおしゃべりをして時間の経つのも忘れるほど話がはずむのです。料理の上手な友、洋裁の上手な友、編物の上手な友、おしゃべりの上手な友、やりくりの上手な友、農家に嫁いで野菜作りの上手な友と、それぞれに特技を持っています。

こんな中で一番のドジは私です。何をするにものろまで、料理も下手で、おしゃべりも下手。友だちになにも自慢するものもないのです。ただ一つだけ皆んなと一緒になれたのは車の運転だけです。それも皆んなは十年から二十年以上の運転歴をもっています。

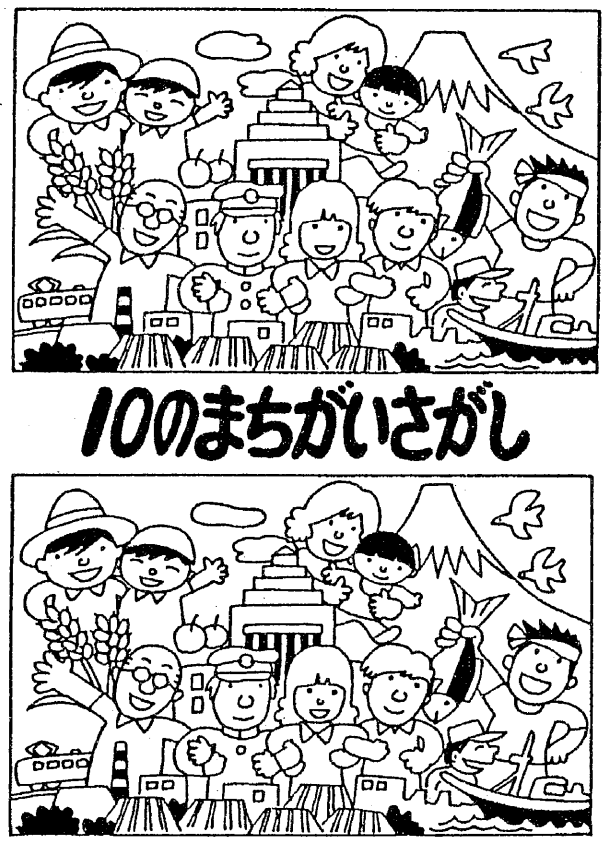
たまにはけんかのようなことになって数カ月間も遠ざかることもあります。ありますが、また「あ、元気だった」と、何事もなかったように話がはずみます。

本当に何をしゃべり合っても気を使うこともなく、つらいこと、楽しいことなどを聞いてもらい、安上がりのおいしい料理を教えてもらえて気持もすっきりします。

最近は温泉行きの話が出るようになり、「ああ、私たちも歳をとったね」と、思わずため息もでますが、「でも、お互いに歳をとっても、気持はいつまでも若い人に負けないようにして頑張ろうね」と、励まし合っているこのごろです。

この友人たちは私の大事な宝です。たとえときどきけんかをしても、いつまでも、いつまでも心の通じ合う友であってほしいと願っています。

10のまちがいさがし



〝核兵器のない、ゆたかな日本〟まちがいは10カ所あります。印刷のよごれやかすれはまちがいに入りません。（答えは3面に）

くらしの歳時記

薫風吸いに海気浴へ

神山恵三

青のりに風こそ薫れとろろ汁　（無村）

風薫る五月はなんと気分のよい季節ではないか。樹々を伝わる五月の風には、フィトンチッドが含まれている。樹々から発散される芳香性物質である。これは新緑の樹々からはとくに多く発散される。風薫るとは正にこのフィトンチッドの香りである。

五月は気温、湿度の状態が快適なばかりでなく、この薫る風もわれわれの心をなごませてくれる。

風を薫らせるものは、樹々からの芳香物質によるばかりでないの療法は、フランスやドイツ、とくにソビエトの黒海沿岸、ユーゴスラビア、アドリア海岸などでは盛んである。

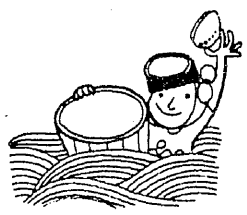
日本のような、豊かな海岸線に富んだ白砂青松の海岸や、海岸すぐ近くまで森林のせまっていて魚類が寄り易い、魚つき林のたくさんある国はそうは多くない。ところが、現在、次第に海岸が破壊され、なぎさなどがどんどん無くなってきている。人間の健康にとって重要な基地となる、美しい海岸線の保存発展はいまこそ必要である。五月の風を薫らせるためにも。

（かみやま・けいぞう＝生気象学者）

海の空気も、海藻から磯の香りをたくさん含んで五月に薫る。無村の句も、そんな磯の香り豊かな五月の海の風にふかれて詠んだのではなかろうか。

樹々からの薫風を胸いっぱいに吸いに森林浴にいくのもいいが磯の香りを吸いに海気浴にいくのもいい。

タラソテラピーという海岸で



サミット不成功…53％

フジテレビは九日夕、東京サミット（西側主要国首脳会議）後に実施した世論調査の結果を放映しました。それによると、「サミットは成功しなかった」が五三・〇％で、「成功した」は三〇・四％にとどまりました。

また、アメリカの有力紙は八日付で、東京サミットは中曽根首相にとってきわめてきびしい結果になったとみる論評、記事を掲載しています。

各紙の見出し基調はほぼ共通し、論評も円高ストップへの協調介入合意とりつけに失敗し、リビア名指しのテロ声明発表でやすやすと譲歩したことで、その無能力と対米追随姿勢をつき、政局運営に困難が増すと報じています。

内閣支持率は半数割る

同じフジテレビの世論調査で、中曽根内閣支持率は四八％と半数を割り、昨年五月比で五・六％ダウン。不支持率は三三・四％と逆に一一・六％増え、サミットへの批判があらわれています。

統一行事を実施

三池主婦会が

三池主婦会は左記の要領で統一行事を実施します。多数の参加を呼びかけています。

日時　五月二十五日　十時開会
場所　荒木観光ホテル（熊本・植木温泉）
交通　送迎バス利用
内容　スポーツや演芸など

時の話題

安全神話

原発事故と放射能

ソ連の原発事故で放出された放射能が、八千キロを飛んでとうとう日本列島までやってきた。

「牛乳を飲ませても大丈夫かしら」「子供を外で遊ばせても平気なの」といった問い合わせが、気象庁や科学技術庁、各地の気象台、衛生研究所などに殺到しているという。

政府の放射能対策本部は「直ちに健康上の影響を及ぼすものではない」といっているが、放射能汚染が長期に続いたらどうなるのだろうか。科学技術庁は「野菜などはよく洗って」とよびかけているけれど。

◎

原子力発電の「重大な事故」は、社会主義国を除く十四カ国で一九七一年から八四年までに百五十一件も起こっている（米議会会計検査院の秘密報告書）。

現在世界で運転中の原発は、三十七カ国・三百三十六基、二億三千六百五十八万一千キロワットにのぼっている。百五十一件というのは氷山の一角だろう。

原発事故で放射能が飛び散ったら、もう防ぎようはない。防ぎようがないものを走らせているのだから、絶対安全などといえるわけはない。その上、事故を隠されれば、人びとは危害を加えられていることにさえ気がつきようもないのだ。

◎

日航ジャンボ機の墜落に続いてスペースシャトル爆発、そしてチェルノブイリ原発事故と、安全神話に包まれていた巨大技術が次つぎに破たんしている。そこに今度は、米デルタロケットの爆発事故である。

折から来日中のレーガン大統領が、胸を張って言った。

「この種のロケットの打ち上げは、これまで百七十八回。そのうち失敗は十二回目。なんだというのだい。百六十六回はうまくいっているんだ」

安全神話なんてうそだよ、せいぜい比率の問題なんだよ、と、大統領は教えてくれている。

時のことば

キュリーとレム

ソ連原発事故に関してよく使われるキュリーは放射能の強さを示す単位で、ピコキュリーはその一兆分の一。政府の放射能対策本部は、一リットル中の放射性物質が飲料水では三千ピコキュリー、牛乳では六千ピコキュリー、葉菜類ではキロ当たり二十万ピコキュリーを超えてはならないとしています。

レムは生体に及ぼす放射線量の影響を測定する単位で、ミリレムはその千分の一。人体の許容線量は年間五百ミリレムとされており、今回雨水中の放射能が最も高かった千葉でも「通常の量を二カ月飲み続けても大丈夫」と同本部は言っています。